

熊本地震震災ミュージアム 基本計画

令和元年9月

熊 本 県

目 次

はじめに 基本計画策定の経緯及び目的	…1
1 震災遺構等の保存	…4
(1) 震災遺構等とは	…4
(2) 震災遺構等の保存方法	…4
(3) 震災遺構等の保存・管理主体	…5
(4) 震災遺構一覧	…6
2 中核拠点の整備	…8
(1) 中核拠点とは	…8
(2) 中核拠点の必要性	…8
(3) 県防災センター内の中核拠点	…10
1) 基本的な考え方	…10
2) 防災センター内の整備概要、機能や諸室	…11
3) 展示内容	…12
4) 管理運営	…13
(4) 東海大学阿蘇キャンパスの中核拠点	…14
1) 基本的な考え方	…14
2) 敷地内整備計画	…16
3) 体験・展示施設の整備概要、機能や諸室	…19
4) 展示内容	…21
5) 震災遺構（地表地震断層と1号館建物）の保存	…24
6) 管理運営	…27
7) 概算整備費用	…27
8) 整備スケジュール	…27
3 地域の拠点の整備	…28
(1) 地域の拠点とは	…28
(2) 各地域の情報発信テーマ	…28
(3) 各地域の拠点の概要	…29
4 熊本地震の経験を語る地震語り部との連携	…37
5 他の機関との連携	…37
6 回廊ルートの設定	…38
7 効果的な情報発信	…38
8 誘客活動	…38
9 「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」との連携	…39
10 震災ミュージアムの運営体制	…40
11 スケジュール	…41

はじめに 基本計画策定の経緯及び目的

本県は、わずか 28 時間の間に震度 7 の地震が二度発生した平成 28 年熊本地震（以下「熊本地震」という。）により甚大な被害を受けました。

このような中、平成 28 年 6 月に「くまもと復旧・復興有識者会議」から、「熊本地震の経験を教訓として、本県のみならず、国民全体で共有し、今後の災害に生かす必要がある。そのため、被害の実情や復旧・復興の過程で得たノウハウ、教訓等を、しっかりと記録に残し、整理・蓄積し、後世に遺していかなければならない。特に幼児・児童・生徒が学習できる震災ミュージアムや防災センターの設立が望まれる。これは、未曾有の大災害を経験した熊本県の責務の一つではあるまいか。」との提言をいただきました。

これを受け、平成 29 年 6 月に、地域防災や防災教育、活断層学や考古学、文化財保護、郷土歴史、観光・まちづくり等の専門的知見を有する学識者等で構成する「熊本地震震災ミュージアムのあり方検討有識者会議」を設置し、熊本地震の経験や教訓を後世に確実に伝える上で、極めて有効と考えられる断層や被災建物等の震災遺構の保存や活用方法などを整理した「熊本地震震災ミュージアムのあり方検討有識者会議報告書」（以下「有識者会議報告書」という。）を平成 29 年 9 月に提出いただきました。

平成 30 年 3 月には、有識者会議報告書の内容を踏まえ、本県における震災ミュージアムの具体化に向けた方向性を示す「熊本地震震災ミュージアムの実現に向けた基本方針（以下「基本方針」という。）」を策定しました。

本計画は、熊本地震の記憶や経験、教訓等を風化させず、確実に後世に伝承する震災ミュージアムの取組をさらに前に進めるため、基本方針に基づき、震災遺構の保存方法や拠点整備の方向性、今後取り組む情報発信の取組等について具体的にまとめたものです。

(1) 基本コンセプト

震災遺構等を活用した震災ミュージアムの実現により、熊本地震の教訓等を確実に後世に伝承し、本県のみならず国内外の防災・減災への対応力の強化を図るとともに、災害に強く、誇れる資産を次代につなぎ、夢にあふれる新たな熊本の創造を目指す。

「復旧・復興の3原則」の一つ「復旧・復興を熊本の更なる発展につなげる」に基づく復興の柱として、震災ミュージアムの実現に向けて取り組む。

- 熊本地震の経験や教訓を学び、風化させず確実に後世に伝承する
- 今後の大規模自然災害に向けた防災対応の強化を図る
- 熊本の自然特性を学び、改めて自然を畏れ、郷土を愛する心を育む
- これらの震災ミュージアムの取組を通して、国内外からの交流人口の拡大を図り、被災地域、ひいては本県の更なる発展につなげる

(2) 震災ミュージアムの形態

熊本地震の特徴を踏まえ、広範囲にわたり出現した断層帯に沿って点在する震災遺構と地域の拠点、企業活動の場など熊本地震の痕跡を遺すものをつなぎ広域的に巡る「回廊形式」とする。

さらに、市町村の主体性を尊重しつつ、県と市町村が連携する中で、市町村がそれぞれの視点から描くテーマに基づく回廊と、県が広域的な視点から描くテーマに基づく回廊が相乗作用する二層構造とする。

(3) 震災ミュージアムの構成

- ・ 震災遺構等
- ・ 県が広域的な視点から熊本地震全体に関する情報を効果的に発信するために整備する「中核拠点」や市町村がそれぞれの視点から情報を発信するために整備する「地域の拠点」
- ・ 既存の文化・交流施設、企業活動の場など熊本地震の痕跡を残すもの 等

(4) 震災ミュージアムの名称

県内各地に点在する震災遺構等を巡る回廊形式のフィールドミュージアムであることから、その名称は、「熊本地震 記憶の廻廊」とする。

(5) 震災ミュージアムの活用

「熊本地震の記憶や経験、教訓の伝承」、「防災体制の強化」、「家庭や学校における防災教育」、「国内外に向けた情報発信」、「地域振興、観光振興の資源」 等

(6) 進化するミュージアム

- ・ 郷土熊本の復興とともに徐々に出来上がり、充実
- ・ 構成、展示内容等は随時見直しを図り、更新

1 震災遺構等の保存

(1) 震災遺構等とは

熊本地震により生じた自然の遺物や人工構造物、建築物に限らず、熊本地震の記憶や経験、教訓をより確実に伝承するために重要な役割を果たすと考えられる有形・無形のもので、次のとおりとします。

[震災遺構等]

- ・地震により出現した断層や被災建物、自然の遺物や人工構造物、建築物等
- ・揺れや被害の大きさ、避難生活の難しさなどを表現し、熊本地震を想起させるもの
- ・原状回復を前提としているが、熊本地震からの復旧・復興の過程が確認できる構造物、建築物 等
- ・その他、熊本地震の記憶等を伝えうるもの（有形・無形）

○震災遺構の具体例

断層、地すべり跡、被害人工物（建物、橋梁、道路のずれ）、ガードレール、ガードパイプ、被災した車、神社の鳥居

○その他の具体例

遺物（止まった時計、避難所掲出の案内文書やパネル、広報誌、会報誌、チラシ、貼り紙、看板や標識等）、手記、記録やメモ、音声、写真、映像 等

(2) 震災遺構等の保存方法

熊本地震の記憶や経験、教訓を後世に伝えるものは、地震により地表に出現した断層や被災建物等の形として残るものと、被災者の避難生活の状況や人々の心、記憶等の形の無いものがあります。時代や世代を超えて伝承すべき事項、事象、そこに込めるメッセージ、語り伝えるべき相手方など、それぞれの状況に応じて、それらを震災遺構等として適切に保存し、活用します。

[参考：基本方針における震災遺構等の保存の考え方]

震災遺構等の保存に当たっては、熊本地震の規模や被害の程度を人々の心に響かせるため、できる限り「ありのままの自然な状態で、現地に保存」することが望まれます。しかし、劣化や消滅が懸念されるもの、災害からの復旧を優先するためにありのままの状態では現地に保存することができないものもあるため、それぞれの震災遺構等の状況に応じて、最適な方法により保存します。

保存方法の例は、次のとおりです。

① 現物保存

- ・できる限りありのままの自然な状態で現地に保存
- ・部分的な保存や、劣化対策を施しての保存
- ・移設しての保存

② 疑似的な保存

- ・写真や映像による保存（デジタルデータによる保存を含む）、最新ICT技術（AR、VR等）の活用 等

③ 震災遺構等の状況に応じ、上記の方法を組み合わせた保存

※熊本地震の被害の状況が確認できる遺物についても収集を行い、中核拠点や地域の拠点において展示します。

(3) 震災遺構等の保存・管理主体

震災遺構等は、原則として震災遺構等が所在する市町村が保存・管理します。

ただし、東海大学阿蘇キャンパスの震災遺構（地表地震断層、旧東海大学阿蘇校舎1号館（以下「1号館建物」という。））については、県が一体的に保存・整備します。

(4) 震災遺構一覧

県や関係市町村が保存する震災遺構とその保存方法、公開の時期は次のとおりです。

52 件

所在	No.	震災遺構候補	地区	保存方法の予定 (現物/写真/ICT)	公開の時期
大津町	①	瀬田神社と巨石	瀬田	現物	公開中
西原村	①	ガードパイプ(大切畑ダム付近県道高森線)	小森	現物	2024年度予定 ※大切畑ダム復旧後
	②	ガードレール(大切畑ダム付近)	小森	現物	2024年度予定 ※大切畑ダム復旧後
	③	ガードレール(小森928-6)	小森	現物	2020年度予定
	④	応急仮設住宅	小森	現物	2022年度予定
	⑤	断層のずれ(小森928-6)	小森	現物	2020年度予定
	⑥	断層のずれ(小森312-1他)	小森	現物	2020年度予定
	⑦	断層表面化(大切畑ダム横)	小森	現物	2020年度予定
	⑧	断層のずれを表す歩道(小森928-6先)	小森	現物	2020年度予定
	⑨	傾いた施設(西原村役場敷地内)	小森	現物	2020年度予定
	⑩	傾いた電柱(西原村役場敷地内)	小森	現物	2020年度予定
	⑪	断層地域(被害が甚大だった地域)	---	写真	---
	⑫	地すべり箇所	小森	写真	---
	⑬	山の中腹で落ちそうな岩(宮山)	宮山	現物	未定
南阿蘇村	①	東海大学阿蘇キャンパス (地表地震断層、1号館建物)	河陽	現物	2020年度予定
	②	旧阿蘇大橋(残った橋桁等)	河陽	未定	未定
	③	大規模地すべり(高野台・京大火山研究所付近)	河陽	ICT	ARアプリで公開中
	④	大規模山腹崩壊(旧阿蘇大橋付近)	河陽	ICT	ARアプリで公開中
	⑤	北向山周辺の地表地震断層	主に立野	現物	視察団体のみ事前 予約で公開
	⑥	床瀬川橋	河陽	現物	公開中
	⑦	阿蘇ファームランドの地下通路	河陽	現物	公開中
	⑧	阿蘇中央火口丘群の表層崩壊	河陽～ 白水	現物	公開中
	⑨	黒川地区の地表地震断層	河陽	ICT	ARアプリで公開中
	⑩	その他の遺構(阿蘇大橋の一部、被災した車)	河陽	現物	公開中
御船町	①	菅原神社の鳥居	上高野	現物	公開中

「保存方法の予定」の種別：

現物：震災遺構を現地で、もしくは移設して、現物そのものを保存

写真：震災遺構をカメラ等で撮影し、アナログ又はデジタルの形式で写真により保存

ICT：震災遺構をカメラ等で撮影した写真や映像を用い、ARやVR等に加工して保存

[続き]

所在	No.	震災遺構候補	地区	保存方法の予定 (現物/写真/ICT)	公開の時期
益城町	①	潮井神社・湧水公園の自然斜面、石積み崩落 (国指定 天然記念物)	杉堂	現物	公開中
	②	谷川地内の地表断層(国指定 天然記念物)	谷川	現物	公開中
	③	堂園畑地の畔の変位(国指定 天然記念物)	上陳	現物	公開中
	④	辻ヶ峰公園内の変位(石碑・自然斜面崩落等)	上陳	写真	---
	⑤	金山川付近の堤防の横ずれ	下陳	写真	---
	⑥	寺迫農道水路の横ずれ	寺迫	現物	公開中
	⑦	道路法面石垣の変位	福原	現物	公開中
	⑧	水路の横ずれ(町道南木崎線沿い)	福原	現物	公開中
	⑨	潮井神社手前の取付道路地すべり	杉堂	現物	公開中
	⑩	木山川杉堂の地すべり	杉堂	現物	公開中
	⑪	堂園池 水路のずれと石造物	上陳	写真	---
	⑫	辻ヶ峰採土場崖の横ずれ	上陳	写真	---
	⑬	金山川上流の道路石積法面のずれ	下陳	写真	---
	⑭	猿田彦石碑の傾きと畑地の変位	下陳	写真	---
	⑮	道路のずれ(三竹町道)	下陳	現物	公開中
	⑯	道路と側溝のずれ(県道)	福原	現物	公開中
	⑰	側溝と路肩のずれ(町道横町線)	宮園	写真	---
	⑱	地盤の隆起と沈下したマンホール(町総合体育館)	木山	写真	---
	⑲	町内にかかる橋脚付近の地盤沈下	町内	写真	---
	⑳	湧水地 水路の変位	惣領	写真	---
	㉑	国道を横切る断層周辺の歩道の変位	砥川	写真	---
	㉒	砥川溶岩の地すべり露頭	砥川	現物	公開中
	㉓	国道443号土山交差点付近の道路の横ずれ	---	写真	---
	㉔	平田中公民館消防小屋	平田	写真	---
	㉕	東無田神社 転倒した石灯籠・鳥居	東無田	写真	---
	㉖	湾曲した水道管	平田	現物	公開中
	㉗	国道443号にかかる畑中橋	宮園	写真	---



国指定天然記念物の断層
(益城町谷川)



旧 阿蘇大橋付近の大規模崩壊
(南阿蘇村立野)



大切畑地区のガードパイプ
(西原村小森)

2 中核拠点の整備

(1) 中核拠点とは

中核拠点とは、県が広域的な視点から効果的に熊本地震に関する情報を発信する震災ミュージアムの拠点です。

また、震災ミュージアムの総合窓口となり、県と市町村による震災ミュージアムの取組みをトータルコーディネートします。

(2) 中核拠点の必要性

甚大な被害をもたらした熊本地震の貴重な教訓を、本県のみならず、国民全体で共有できるよう伝えるとともに、今後の災害に生かしていくためには、熊本地震の正確な情報をより多くの人々に効果的に伝えるだけでなく、災害や防災を学び、災害対応に優れた人材の育成等を行う中核拠点の整備が必要です。

そこで県は、国内外から多くの人々が集まる「熊本都市部」にある「県防災センター」と、熊本地震の象徴的な被災地である「阿蘇地域」にある「東海大学阿蘇キャンパス」の二か所に中核拠点を整備し、それぞれの特徴を生かした展示や座学、体験・体感型の防災学習等を行います。

[参考]：中核拠点の整備の必要性に関する提言・報告

「くまもと復旧・復興有識者会議提言書」(平成 28 年 6 月)

『被害の実情や復旧・復興の過程で得たノウハウ、教訓等を、しっかりと記録に残し、整理・蓄積し、後世に遺していかなければならない。特に幼児・児童・生徒が学習できる震災ミュージアムや防災センターの設立が望まれる。これは、未曾有の大災害を経験した熊本県の責務の一つ』との提言

「熊本地震震災ミュージアムのあり方検討有識者会議報告書」(平成 29 年 9 月)

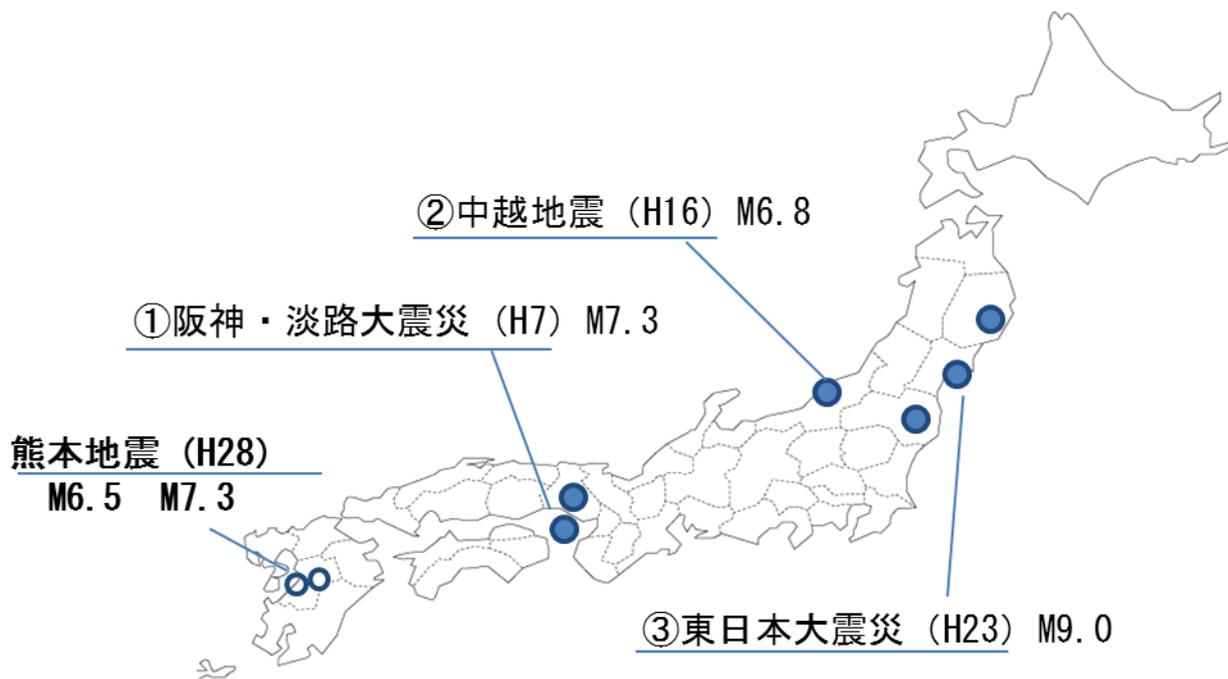
『熊本地震の記憶や経験、教訓を後世に伝承するとともに、災害そのものや防災を学び、人材づくりや地域づくりを実現可能とするための中核拠点が必要』との報告

[参考]：二か所の中核拠点の役割分担

	県防災センター	東海大学阿蘇キャンパス
目的	災害対応の教訓を学び、備える	自然の驚異を感じ、熊本地震を伝承する
コンセプト	熊本地震の経験から得た教訓、ノウハウを学び、災害対応に優れた人材の育成を行う	熊本地震の被害の実情が遠る東海大学阿蘇キャンパス内において熊本地震を追体験し、後世に伝承する
役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な記録から熊本地震における災害対応の事実を知る ○ 経験して得られた教訓やノウハウを知る ○ 災害対応に優れた人材育成 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 震災遺構から自然の驚異を体感 ○ 体験・体感型の展示や装置等による熊本地震の追体験 ○ 語り部による教訓等の伝承 等
利用者	メインターゲット 県内外の行政機関や自主防災組織、区長会、婦人会等	メインターゲット 児童・学生(小学校、中学校、高校等の社会科見学、修学旅行等)や一般観光客

[参考]：他県における情報発信拠点の整備事例

拠点の名称・場所	情報発信拠点	整備時期
①阪神・淡路大震災（平成7年（1995年））		
北淡震災記念公園 兵庫県淡路市	野島断層保存館	平成10年
人と防災未来センター 兵庫県神戸市	人と防災未来センター	平成14年
②中越地震（平成16年（2004年））		
中越メモリアル回廊 新潟県長岡市	中越メモリアル回廊	平成23年
③東日本大震災（平成23年（2011年））		
復興祈念公園 岩手県陸前高田市	いわてTSUNAMIメモリアル	令和元年
復興祈念公園 宮城県石巻市	追悼・祈念・伝承施設	令和2年 （予定）
復興祈念公園 福島県双葉町	原子力災害アーカイブ拠点	令和2年 （予定）



(3) 県防災センター内の中核拠点

1) 基本的な考え方

ア. 目的

災害対応の教訓を学び、備える。

イ. コンセプト

本県の災害対応の司令塔である防災センター内にあるオペレーションルーム等の見学とセットで座学による災害対応を学ぶなど、熊本地震の経験から得た教訓、ノウハウを学び、災害対応に優れた人材の育成を行います。

ウ. 機能

① 展示学習機能 ～熊本地震の記憶を発信する～

熊本地震の発生直後の状況、避難所や救助活動の状況、体験談等に関する写真や映像を展示し、熊本地震の情報を広く発信します。

また、熊本で起こりうる災害に対する防災・減災に関連した展示も行い、人々の災害対応力を高めます。

さらに、震災ミュージアムの中核拠点として回廊全体の概要を紹介します。

なお、展示に当たっては、熊本地震の実情をリアルに伝えるために、「熊本地震デジタルアーカイブ」をはじめとした写真や映像等のデジタルデータを積極的に活用します。

② 収集保管機能 ～熊本地震の記録や記憶を保存する～

熊本地震の記憶や経験、教訓を伝承するために、関連する情報を収集・整理・分析・保管するとともに、広く閲覧できる環境を提供します。

③ 教育機能 ～災害対応力を高める～

熊本地震から得られた教訓を参考に、日頃の防災対策や被災時の行動、避難生活の過ごし方など、さまざまなテーマを取り上げ、セミナーや講義が開催される場とします。これを通じて災害が発生した際に対応できる人材を育成します。



【役割】

- 様々な記録から熊本地震における災害対応の事実を知る
- 経験して得られた教訓やノウハウを知る
- 災害対応に優れた人材育成 等

エ. 利用者の想定

前述の機能を踏まえ、防災センター内の中核拠点の主なターゲットを次のとおり想定します。

○県内外の行政機関や自主防災組織、区長会、婦人会等

なお、小中学校の社会科見学や団体による視察、一般観光客の利用も想定します。

2) 防災センター内の整備概要、機能や諸室

新築する県合築庁舎（仮称）に移転する防災センターの1階部分に、展示室や書庫を整備します。

ア. 施設の機能

1) ウ. 機能で示した① 展示学習機能及び② 収集保管機能については、展示室及び書庫を活用します。

なお、1) ウ. 機能で示した③ 教育機能については、合築庁舎内に整備される会議室を活用します。

機能	施設要素	概要
展示学習機能	展示室	・熊本地震を広く伝え、地震災害を理解してもらう展示を行います。 また、防災・減災に関する展示を行います。 ・震災ミュージアムにおける回廊全体の概要を紹介します。
収集保管機能	書庫	熊本地震関連の書籍や書類、資料等を収集し、保管します。

イ. 諸室に関する設定

・展示室

熊本地震発災当時の状況や復興の過程がわかる写真等を展示するとともに、防災・減災を学ぶことができるコーナーを整備します。

進化する震災ミュージアムとして、展示物を定期的に見直し・更新することから、諸室空間の使い方に柔軟性を持たせる設計とします。

なお、視覚や聴覚の障がいを持った方、外国人の方への展示解説に十分に配慮します。

また、展示室内の展示は見通しに配慮するとともに、災害時には災害対応のスペースの一部として利用することを想定し、展示造作などはできる限り可動なものとしします。

・書庫

熊本地震に関連する書籍や書類、資料等を収集し、保管します。また、震災関係の公文書等を保管します。

・合築庁舎内会議室の活用

大学、学術機関等の専門家等による熊本地震の教訓や防災・減災に関する研究成果を伝えるセミナー、語り部による講演等を開催するため、合築庁舎内に整備される会議室を活用します。

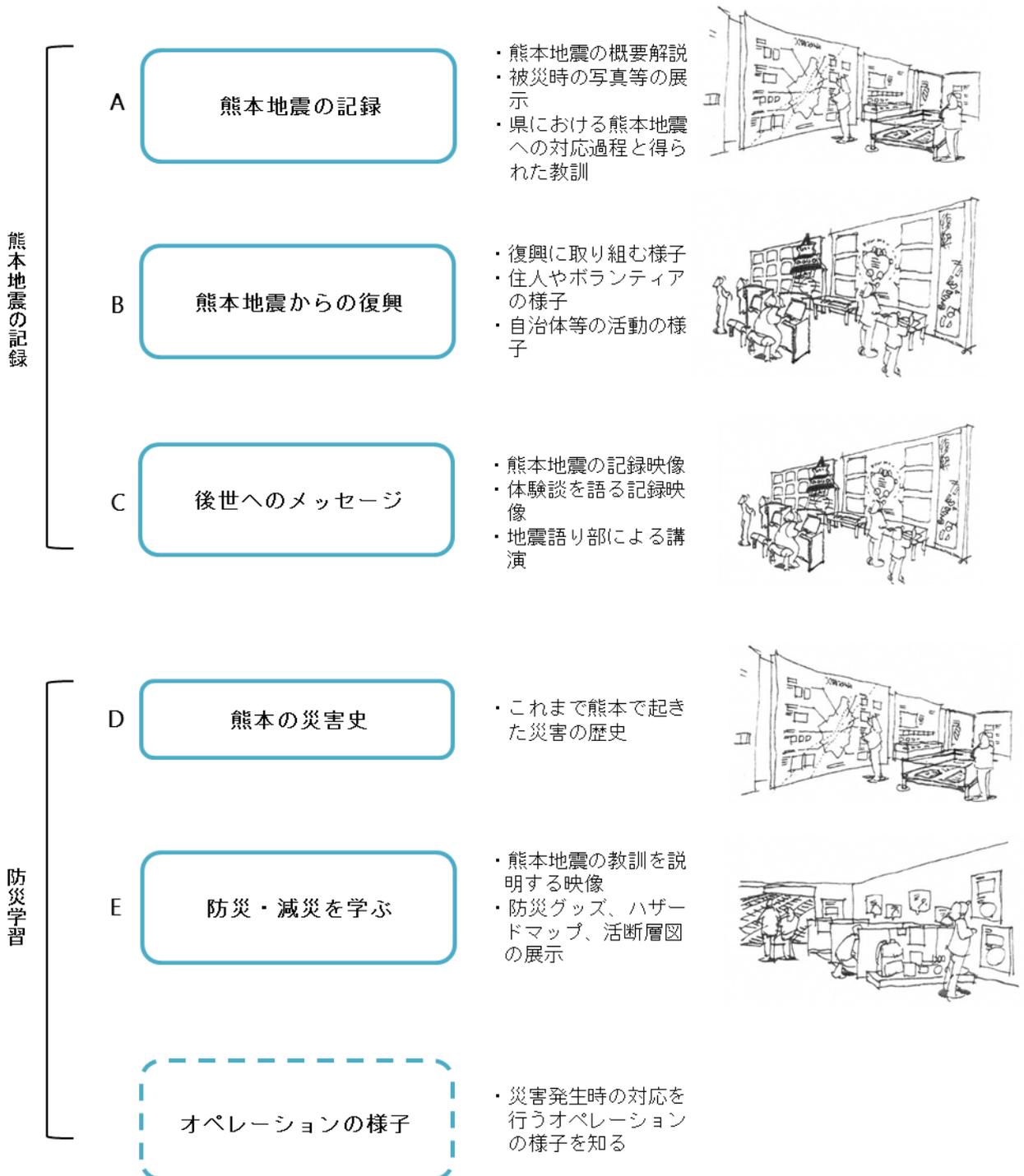
3) 展示内容

ア. 展示室内の展示構成イメージ

展示室では、代表的な震災遺構や地域の拠点における情報発信の取組みなど、震災ミュージアムの回廊ルート全体の紹介を行いつつ、熊本地震の記録から災害対応の教訓を学び、そして今後の備えに繋がる展示構成とします。

また、地震だけでなく、大雨や台風災害、津波、土砂崩れ等に関する展示（年表や地図、記録誌等）も検討していきます。

さらに、来館者の学習ニーズに合わせて、行政の災害対応の状況を知っていただく機会を設けるため、防災センター内にあるオペレーションルームの見学などにより、オペレーションの様子を伝えます。



<整備イメージ>



写真等の展示コーナー



災害関連図書



防災グッズ

4) 管理運営

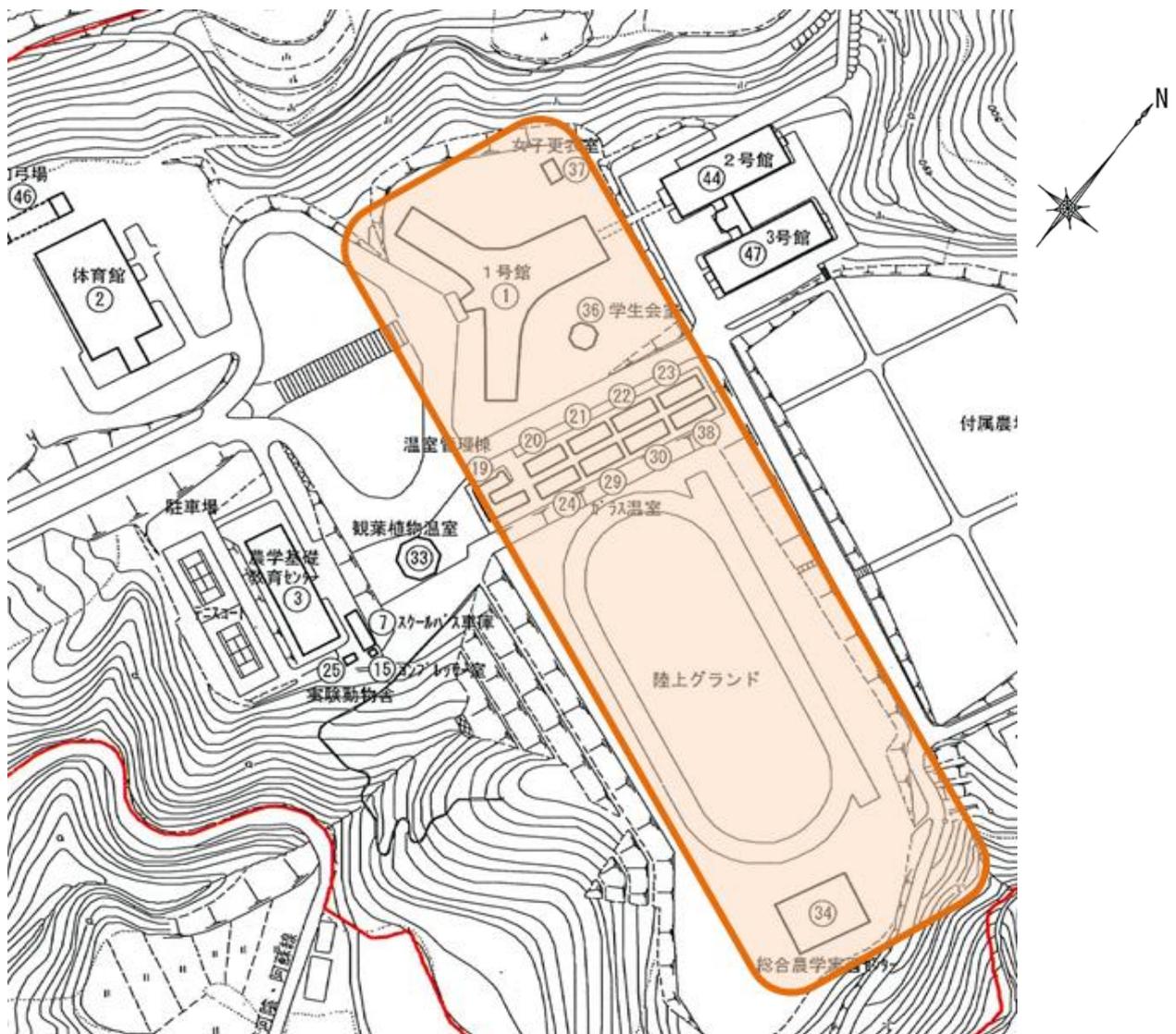
管理運営の考え方

県庁舎の一部として管理します。

展示室は、多くの方に気軽に来ていただき自由に見学、閲覧していただくこととしていますが、小中学校の社会科見学や団体による視察等について、事前の予約を受け付けた場合は、担当職員が対応します。

(4) 東海大学阿蘇キャンパスの中核拠点

[中核拠点 東海大学阿蘇キャンパスの全体図]



着色範囲は震災ミュージアムの中核拠点として使用を予定している部分。

1) 基本的な考え方

ア. 目的

自然の驚異を感じ、熊本地震を伝承する。

イ. コンセプト

熊本地震の被害の実情が遺る東海大学阿蘇キャンパス内において熊本地震を追体験し、後世に伝承する。

ウ. 機能

① 展示学習機能

～熊本地震を体験し、自然の驚異と恵み、備えの必要性を学ぶ～

震災遺構（地表地震断層、1号館建物）の実物展示と、主に地震をテーマとした体験型の装置を使い、地震の凄まじさを感じるとともに、地震による「液状化現象」のメカニズム等を学習できるようにします。

また、大地の成り立ちや自然との共存の歴史を知ってもらい、利用者のそれぞれの地域の災害への備えや、いつどこで起こるかわからない災害への備えにつなげます。

さらに、隣接する震災遺構の見学や屋外の広場を利用した体験プログラムを通じて、展示学習の深度を深めます。

なお、展示に当たっては、熊本地震の実情をリアルに伝えるために、「熊本地震デジタルアーカイブ」をはじめとした写真や映像等のデジタルデータを積極的に活用します。

② 教育機能 ～熊本の大地を学ぶ～

自然の驚異と恵み、地震をはじめとした災害とそれに対する備えなどの講座やセミナー、プログラムを実施します。

③ 交流機能 ～熊本の魅力を発信する～

熊本地震の経験を語る方々（地震語り部）と、訪れた人々との交流の場とします。また、震災ミュージアムの回廊内における地域の情報を発信し、地域振興や観光振興につなげます。

④ 産学官連携機能 ～産学官が連携して災害に備える～

大学や専門の研究機関による地震や活断層、防災・減災対応等に関する最新の研究成果や知見、また、企業等による防災・減災に関連する最新の研究・技術開発や開発された製品等を知る場を提供します。

⑤ 総合窓口機能 ～全体をむすぶ～

震災遺構や中核拠点、地域の拠点、その他の拠点等（文化施設や観光施設等）、震災ミュージアム全体の案内を行います。

また、東海大学阿蘇キャンパス内の中核拠点の運営にかかる事務室を置き、展示の解説や施設見学の支援を行います。



【役割】

- 震災遺構から自然の驚異を体感
- 体験・体感型の展示や装置等による熊本地震の迫体験
- 語り部による教訓等の伝承 等

エ. 利用者の想定

前述の機能を踏まえ、東海大学阿蘇キャンパス内の中核拠点の主なターゲットを次のとおり想定します。

○児童・学生（小学校、中学校、高校等の社会科見学、修学旅行等）や一般観光客

なお、研究者や行政機関、地域団体等の利用も想定します。

2) 敷地内整備計画

ア. 震災遺構の保存

東海大学阿蘇キャンパスの敷地に出現した地表地震断層とその直上にある建物（1号館建物）を貴重な震災遺構としてできる限りありのままに保存します。

イ. 体験・展示施設の整備

屋外の震災遺構（地表地震断層、1号館建物）を保存し、展示するだけでなく、体験型の展示を中心に整備します。

自然の驚異とそこからもたらされる恵みを学び、今後の災害への備えが重要との認識につなげる学習を可能とするとともに、震災ミュージアムの回廊内における地域の情報を発信し、地域振興や観光振興など様々な面で活用できるものとなります。

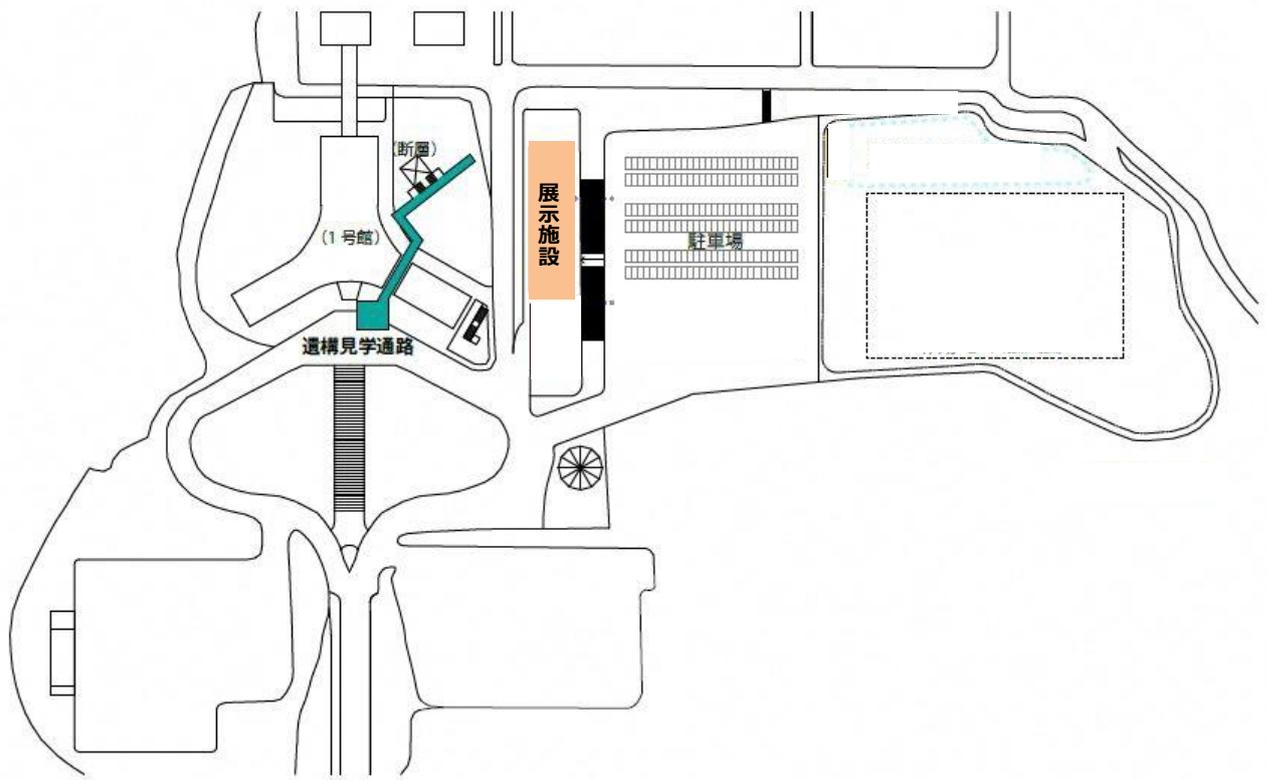
体験・展示施設では、展示物の展示だけでなく、熊本地震の経験を語る方々（地震語り部）の講演やセミナーの開催など、交流機能や震災ミュージアム全体を案内する総合窓口機能を有することとします。

ウ. 来場者用駐車場の整備（大型車及び普通車 100 台程度を想定）

個人や団体旅行で訪れる方々向けの来場者用駐車場を整備します。

普通乗用車だけでなく、貸切バス（大型・中型・小型）等の駐車を想定します。また、身障者駐車場を確保します。

[敷地内整備の全体レイアウトイメージ]



「震災遺構（地表地震断層、1号館建物）」と「体験・展示施設」、「駐車場」のそれぞれの間の移動がスムーズに行われるよう、一体感を持たせるような敷地内の整備とします。

地表地震断層等の整備に当たっては国立公園満喫プロジェクト*等と連携を図ります。

また、高齢者や障がいのある方、外国人の方等、全ての人にとって使い易い施設となるよう、整備に配慮します。

上記はあくまでイメージであり、今後の設計等によっては大きく変わることがあります。

※国立公園満喫プロジェクトとは

国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標に、環境省が国内8箇所の国立公園において、2020年度までに訪日外国人を惹きつける取組を計画的、集中的に実施するもの。

[中核拠点 東海大学阿蘇キャンパスのイメージスケッチ]



3) 体験・展示施設の整備概要、機能や諸室
ア. 施設の機能や面積

機能	施設要素	概要	想定面積 (㎡)
展示学習機能	展示室	地震について体験性の高い展示と熊本の大地の成り立ちを学ぶ展示を整備します。	600
	企画展示室	大学や専門の研究機関による最新の研究成果や知見、また、企業等の最新の研究成果や製品等を展示・紹介可能な企画展スペースを整備します。	100
交流機能	研修・交流・会議室	地震や災害、防災についての情報発信や情報交換、打ち合わせや会議のためのスペースです。	100
事務管理機能	事務室等	職員の事務室です。打ち合わせスペースも確保します。	70
小計			870
その他 (トイレ、廊下、機械等)			430
想定総面積			1,300

イ. 主な諸室に関する設定

・展示室、企画展示室

地震動体感装置や液状化現象を再現する装置等、地震についての体験性の高い装置を設置します。併せて、大学や専門の研究機関による最新の研究成果や知見、また、企業等の最新の研究成果や製品等を展示・紹介します。

展示物の制作に当たっては、熊本地震の実情をリアルに伝えるために、「熊本地震デジタルアーカイブ」をはじめとした写真や映像等のデジタルデータを積極的に活用します。

また、進化する震災ミュージアムとして、展示物を定期的に見直し・更新するため、展示物や装置については更新のしやすさに配慮するとともに、展示物の出し入れがスムーズに行える動線を確保するなど、諸室空間の使い方にも柔軟性を持たせる設計とします。

また、視覚や聴覚の障がいを持った方、外国人の方への展示解説に十分に配慮します。

・研修・交流・会議室

研修会やセミナーの実施、防災・減災関連の事業を行う企業や大学及び行政との産学官連携、さらに、熊本地震の経験を語る地震語り部の活動の場となります。

・事務室等

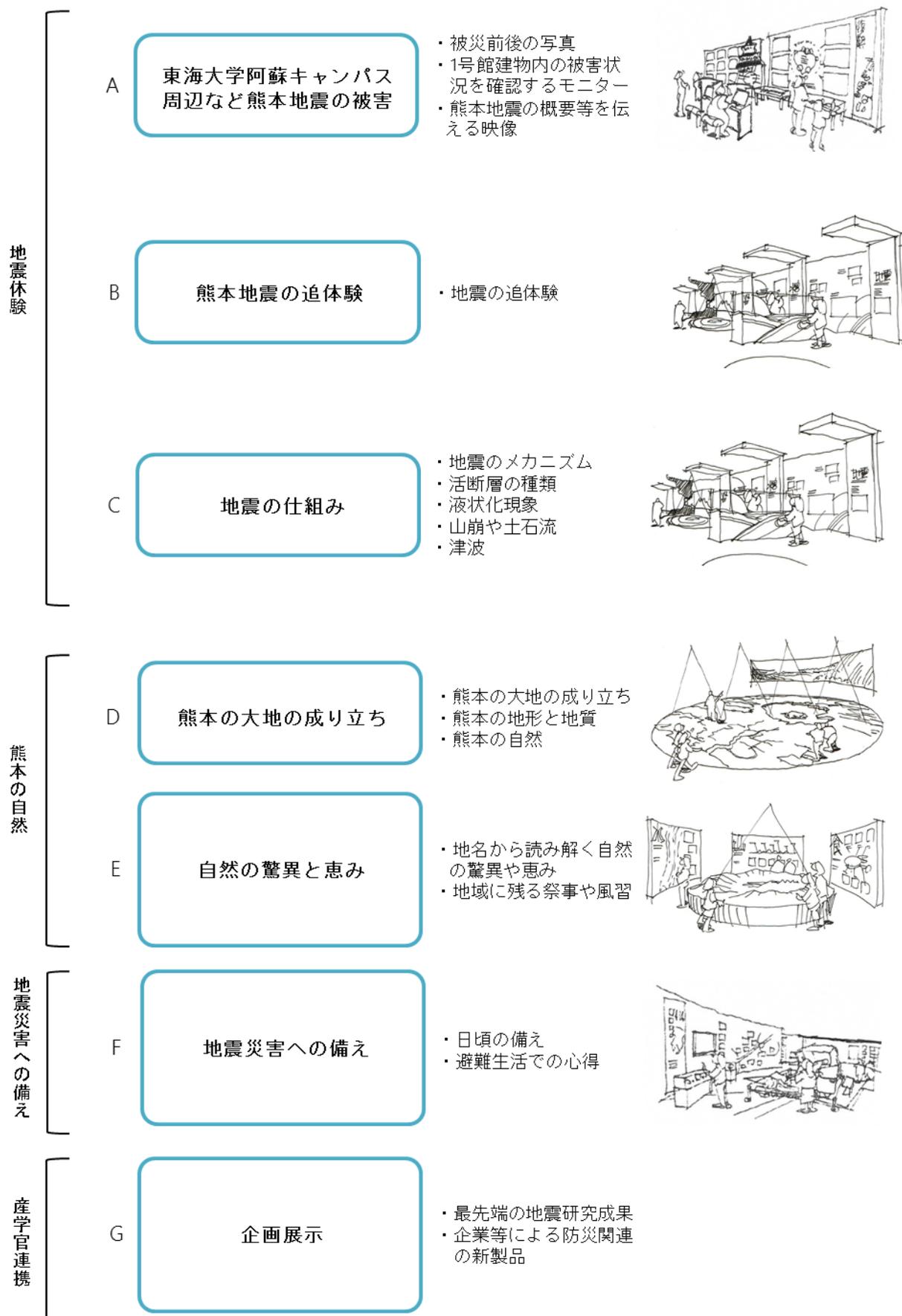
メインエントランス近くに配置し、施設の管理や来館者への施設内及び遺構見学通路の案内を行います。

・トイレ

車いす利用者等のための多目的トイレを設けます。

4) 展示内容

ア. 体験・展示室内の展示構成イメージ



イ. 主な展示内容のイメージ

A 東海大学阿蘇キャンパス周辺など熊本地震の被害

東海大学阿蘇キャンパス周辺の地震被害状況を伝える各種写真パネルや映像の展示

熊本地震の被害の状況がリアルに確認できる写真を収集し、展示します。

- ・ 東海大学阿蘇キャンパス周辺の被災前後の写真
- ・ 東海大学阿蘇キャンパス 1 号館の被災を再現したVR映像
- ・ 1 号館建物内部の被害状況を確認できるモニター（遠隔操作）

熊本地震の概要や復旧・復興する姿等が確認できるシアター

熊本地震の概要や被災から復旧・復興する姿等の様々な映像を上映し、熊本地震を後世に伝承します。

[上映する映像]

- ・ 熊本地震の被害の状況を解説する映像
- ・ 熊本地震を再現する映像
- ・ 県内各地の被災状況を撮影したドローン映像
- ・ 熊本地震を経験した方々の記録映像
- ・ 新阿蘇大橋の整備過程や南阿蘇鉄道の復旧工事状況を記録した映像

B 熊本地震の追体験

熊本地震を再現する地震動体感装置

日頃の備えの大切さを理解していただくため、複数人が同時に熊本地震だけでなく過去の様々な巨大地震を体験できるようにし、部屋の床全体が大きな揺れに見舞われる演出を施します。壁面には地震被害の再現映像を投影し、よりリアルな地震の疑似的体験ができるようにします。

C 地震の仕組み

地震の仕組みの解説や液状化現象、建物の倒壊等を再現する体験型実験装置

内陸型や海溝型など、地震発生の基礎を学ぶ解説パネルや写真パネル、模型等の展示を行います。

箱の中に敷き詰めた土壌に建物の模型を置き、土壌を揺らすことで液状化現象を再現できる実験装置を設置し、科学的なメカニズムを学習できるようにします。

また、地震の揺れにより建物がどのような影響を受けるのか、そして免震対策等がいかに効果的なものか、目の前で観察できる実験装置を設置します。

さらに、布田川断層の活動のメカニズムや今後の日奈久断層帯の活動を解説する映像等を上映します。

D 熊本の大地の成り立ち

熊本の大地を学ぶジオラマ

阿蘇中岳の麓である阿蘇市から布田川断層帯に位置する南阿蘇村、大津町、西原村、益城町、熊本市、そして日奈久断層帯に位置する御船町、宇城市、宇土市の範囲まで含めた巨大ジオラマを展示し、九州全体の中での熊本の大地の地形や地質を広範囲にわたって学習できるようにします。

九州の大地の成り立ちを表したプロジェクションマッピング

熊本県内にとどまらず、九州全体の地形がわかるジオラマとそのジオラマに九州の大地の成り立ちを投影するプロジェクションマッピングを設置します。これにより、九州で生活する人々全体が九州の地形の特徴を把握することができ、各々の災害への備えの必要性について理解を深めていただきます。

布田川断層や日奈久断層の剥ぎ取り断層面

布田川断層と日奈久断層の断層剥ぎ取り面を展示し、過去に繰り返された巨大地震の爪痕を確認できるようにします。

E 自然の驚異と恵み

過去の自然災害との共生を伝える祭事や風習の紹介

県内において繰り返されてきた自然災害について、各地に残る伝承や祭事、風習、地名に隠された由来等を紹介します。

また、熊本の自然の驚異と恵み、自然との共生の歴史を説明する映像を上映します。

F 地震災害への備え

地震災害への対策・対応を解説したパネルや映像

地震災害に対する日頃の備えや地震が発生した際の安全確保、避難行動、避難生活における注意点等についてわかりやすく解説するパネル等を展示します。

また、熊本地震の経験から得られた教訓をもとにした地震災害への備えの必要性とそのポイント等を解説する映像を上映します。

G 企画展示

地震の最先端の研究や最新の防災対策の実例、企業等による技術開発の紹介

国内外で発生している地震に関する最先端の研究事例の紹介や最新の防災対策の実例、企業等が開発した地震対策関連製品を展示します。

<整備イメージ>



地震動体感装置



液状化現象実験装置



プロジェクションマッピング

5) 震災遺構（地表地震断層と1号館建物）の保存

ア. 保存の意義

地表地震断層とその直上にある建物の被害を一体的に見ることができる事例は、国内に例を見ません。

地震の破壊の力が建物の上層階にどのように広がったか等、地表地震断層が建物に与えた影響を実物をもって検証するということは大変有意義であり、その検証を通じて、建物の耐震化など防災・減災対策に資することができます。

イ. 地表地震断層の保存

東海大学阿蘇キャンパスの敷地内に出現した地表地震断層は、火山のカルデラ内に出現した世界的にも極めて珍しい地震断層であり、地表地震断層とその直上にある建物の被害とを一目で確認することができます。

県は、この地表地震断層を貴重な震災遺構とし、1号館建物と一体的にできる限りありのままの状態を保存します。

<保存の方法>

- ・風雨による浸食を防ぐため、地表地震断層の表層を固化剤で保護し、現物をできる限りありのままに保存します。
- ・断層面の様子が分かるよう、断層トレンチを実施します。



エントランス部分



中庭部分

ウ. 1号館建物の保存

地表地震断層と一体的に、かつ、できる限り被災当時の姿で保存を行い、熊本地震の揺れの大きさと自然の驚異を効果的に発信します。

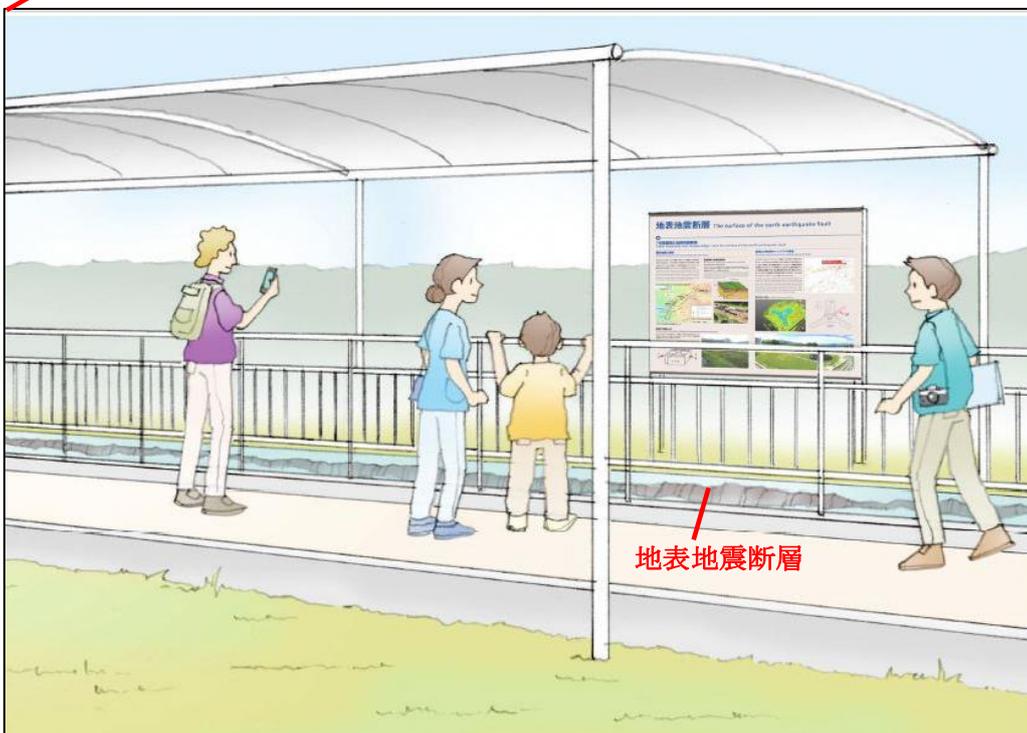
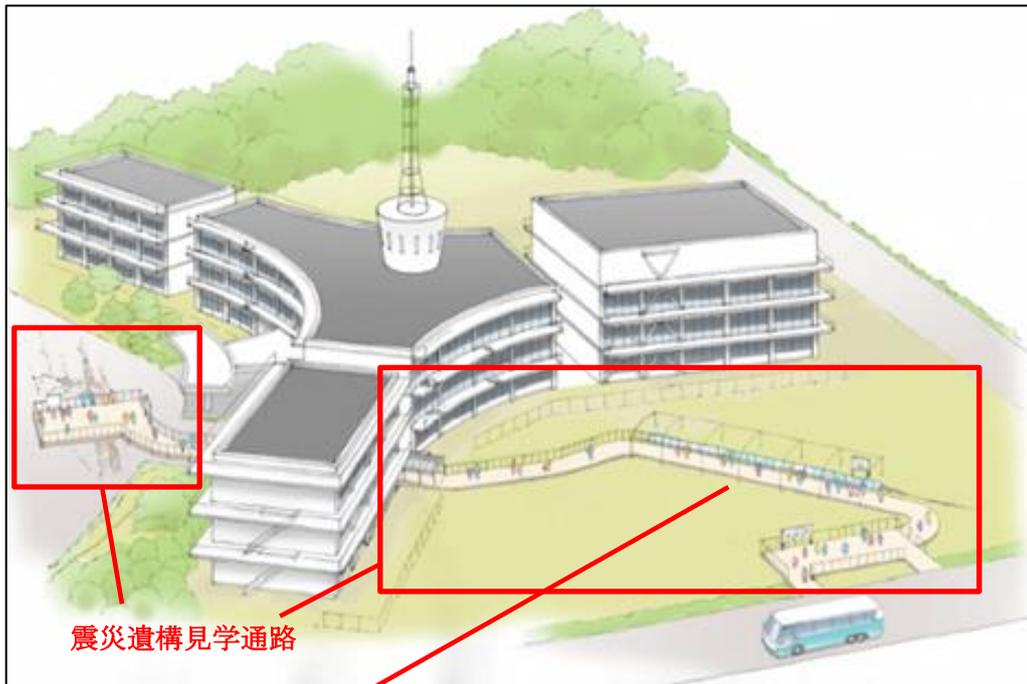
1号館建物の被災状況調査の結果、内部への人の立ち入りは難しいこと、建物を4つのブロックに分ければ、ほぼ、全体を残すことが可能ということが確認できたことから、建物を4つのブロックに分けた上で、ブロックごとに補強を行って保存します。

さらに、被害が最も大きい執務室内部の状況を外から見るようにします。



エ. 震災遺構見学通路

地表地震断層と1号館建物を一体的に見学できるようにするための見学通路を設置します。



震災遺構見学通路のうち、地表地震断層見学部分を拡大したもの

6) 管理運営

ア. 管理運営の考え方

「公の施設」として、修学旅行や企業の視察研修などの団体旅行を含め、県内外から多くの来訪者が予想されることから、来訪者にとって効率的、効果的な管理運営を行う必要があります。

県民、大学や研究機関等との連携、展示物や貴重な資料の保護、来訪者の安全確保等、拠点を魅力的かつ継続的に、そして安定的に運営するため、指定管理者制度等、民間の活力やノウハウの積極的な活用を検討していきます。

イ. 具体的な検討内容

①運営方式

拠点の効率的、効果的な運営の観点から、指定管理者制度等、民間の活力やノウハウの積極的な活用を検討していきます。

②入館料

熊本地震の経験、教訓等を防災・減災に生かすための教育拠点であり、多くの方々に来訪いただく必要があること、定期的な展示の更新を行い、持続可能な運営を行っていく必要があること等の観点から「有料」か否か、「有料」とする場合の料金設定等について検討していきます。

7) 概算整備費用

次の金額を見込みます。

- | | |
|-------------------------------|--------|
| ・震災遺構（地表地震断層及び1号館建物）の保存 | 約4億円 |
| ・体験・展示施設本体及び屋内展示物整備（屋外設備費を含む） | 約15億円 |
| | 計約19億円 |

8) 整備スケジュール

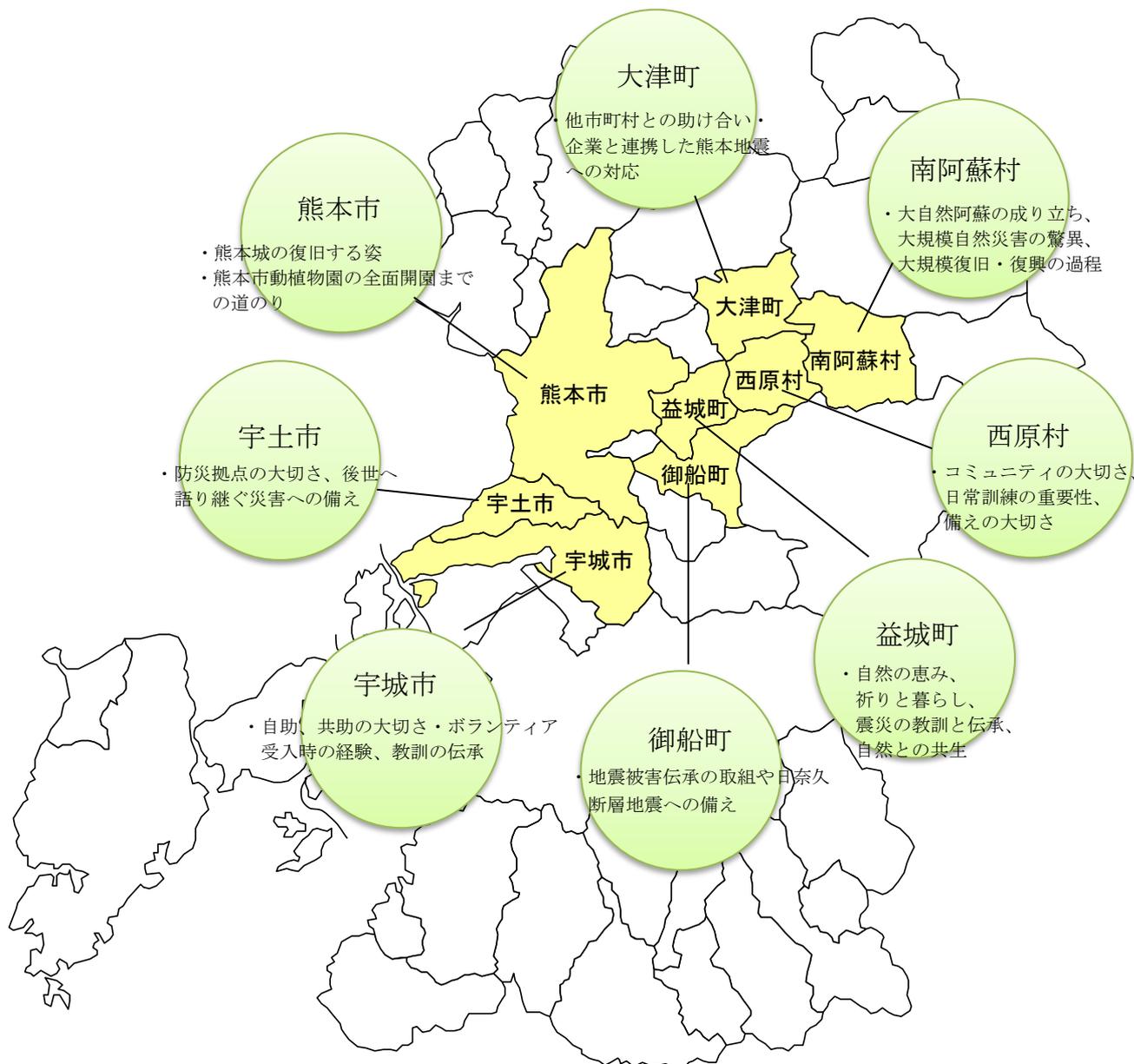
- ・震災遺構（地表地震断層及び1号館建物）の保存
保存工事 令和元年度（2019年度）
※令和2年度（2020年度）春に公開予定
- ・体験・展示施設整備
設計委託 令和元年度（2019年度）～令和2年度（2020年度）
整備工事 令和3年度（2021年度）
※令和4年度（2022年度）春オープンを予定

3 地域の拠点の整備

(1) 地域の拠点とは

地域の拠点は、市町村が熊本地震の被害の実情や教訓、地域の復興に向けた取組等について地域の視点から情報を発信するとともに、地域のコミュニティづくりや地域の活性化につなげる拠点です。

(2) 各地域の情報発信テーマ



(3) 各地域の拠点の概要

① 熊本市

項目	展開概要		
地域の訴求テーマ	熊本城の復旧する姿 熊本市動植物園の全面開園までの道のり		
震災ミュージアムの主な拠点	◎熊本城 ◎桜の馬場城彩苑 熊本城ミュージアムわくわく座 ◎熊本市動植物園		
拠点の主な役割	・震災復興のシンボルとして、着実に復旧が進む姿を見せる		
想定される機能と必要諸室	機能	展示内容リスト	諸室
	展示学習機能	・天守の被災状況、復旧に向けた技術紹介 ・明治22年の震災	熊本城天守閣
		・熊本地震の被災状況 ・熊本城の復旧過程	熊本城 桜の馬場城彩苑 熊本城ミュージアムわくわく座
		・被災により避難を余儀なくされた動物たちが帰ってくるまでの過程	熊本市動植物園
	交流機能	・地域の観光名所案内 ※地域の文化財、歴史的建造物等 ・地域の物産案内 ・地域イベント案内	桜の馬場城彩苑 総合観光案内所 桜の小路
	提供するプログラム例	○熊本城の被害状況及び復旧過程の観覧	熊本城特別見学通路（仮設）
○各種イベントの開催 ○ボランティアガイドによる解説案内		桜の馬場城彩苑 熊本城ミュージアムわくわく座 総合観光案内所 桜の小路	
○震災当時から復興までの映像放映		熊本市動植物園	
想定利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・一般観光客 ・学校団体、修学旅行 ・視察団体 ・研究者、研究者団体 		

拠点の公開時期：公開中

熊本城について、

①城内各所に説明板を設け公開中

②工事用スロープを使った日祝限定の「特別公開第1弾」は2019年10月5日開始予定

③特別見学通路の完成は2020年春の予定（特別公開第2弾）

④天守閣内部の公開は2021年春の予定（特別公開第3弾）

⑤千葉城地区にて熊本城の再建に関する情報発信拠点整備を検討中



熊本城



熊本市動植物園

② 宇土市

項目	展開概要		
地域の訴求テーマ	防災拠点の大切さ、後世へ語り継ぐ災害への備え		
震災ミュージアムの主な拠点	◎宇土市役所新庁舎 市民交流スペース（新設）		
拠点の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・震災ミュージアム全体のガイダンス（共通展示） ・地域の魅力を知ってもらう ・地域の復旧・復興の過程を知ってもらう ・震災の伝承 ・防災の啓発 		
想定される機能と必要諸室	機能	展示内容リスト	諸室
	ガイダンス機能	・全体ガイダンス	コーナー展示
		・地域ガイダンス	コーナー展示
	展示学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・宇土市の地震の特徴と被害状況 ・豪雨災害の被害状況 ・宇土市の成り立ちと復旧・復興 ・宇土市の防災活動 	展示室
	交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光名所案内 ・地域の物産案内 ・地域イベント案内 	コーナー展示
提供するプログラム例	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部の映像上映 ○防災講習会 	多目的室	
想定利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民 ・一般観光客 ・学校団体、修学旅行 ・視察団体 		

拠点の公開時期：2022年度予定



被災した旧宇土市役所

③ 宇城市

項目	展開概要		
地域のテーマ	自助、共助の大切さ・ボランティア受入時の経験、教訓の伝承		
震災ミュージアムの主な拠点	◎松橋東防災拠点センター（新設）		
拠点の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・震災ミュージアム全体のガイダンス（共通展示） ・地域の魅力を知ってもらう ・地域の復旧・復興の過程を知ってもらう ・震災時の備えの大切さ ・ボランティアセンターの設置と活動の状況を知ってもらう ・市内6箇所に整備される防災拠点センターの役割を知ってもらう 		
想定される機能と必要諸室	機能	展示内容リスト	諸室
	ガイダンス機能	・全体ガイダンス	コーナー展示
		・地域ガイダンス	コーナー展示
	展示学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・宇城市の地震の特徴と被害状況 ・宇城市の成り立ちと復旧・復興 ・消防団、ボランティアセンターの活動 ・市内6箇所に設置される防災拠点センターの役割 	コーナー展示
	交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光名所案内 ・地域の物産案内 ・地域イベント案内 	コーナー展示
提供するプログラム例	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部による写真ギャラリー解説 ○防災教室、講習会 	研修室	
想定利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・視察団体 ・学校団体、修学旅行 ・地域住民 		

拠点の公開時期：2021年度予定



松橋東防災拠点センター

④ 大津町

項目	展開概要		
地域のテーマ	他市町村との助け合い・企業と連携した熊本地震への対応		
震災ミュージアムの主な拠点	◎大津町役場新庁舎（新設） ◎大津町立おおづ図書館（既存）		
拠点の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・震災ミュージアム全体のガイダンス（共通展示） ・地域の魅力を知ってもらう ・地域の復旧・復興の過程を知ってもらう ・他市町村との連携による避難活動 ・地域民間企業の協力による代替避難所 		
想定される機能と必要諸室	機能	展示内容リスト	諸室
	ガイダンス機能	・全体ガイダンス	コーナー展示
		・地域ガイダンス	コーナー展示
	展示学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・大津町の地震の特徴と被害状況 ・大津町の成り立ちと復旧・復興 ・他市町村との連携 ・県立大学・民間企業との連携 	展示室
	交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光名所案内 ・地域の物産案内 ・地域イベント案内 	コーナー展示
提供するプログラム例	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部による写真ギャラリー解説 ○インタビュー映像の上映 ○県立大学による記録書籍解説 ○防災教室、講習会 	特設コーナー	
想定利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・視察団体 ・学校団体、修学旅行 ・地域住民 		

拠点の公開時期：2021年度中を予定



新庁舎



おおづ図書館

⑤ 西原村

項目	展開概要		
地域の 訴求テーマ	コミュニティの大切さ、日常訓練の重要性、備えの大切さ		
震災ミュージアム の主な拠点	◎俵山交流館 萌の里		
拠点の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・震災ミュージアム全体のガイダンス（共通展示） ・地域の震災遺構等のガイダンス ・地表地震断層とその特徴を知ってもらう ・コミュニティ形成の重要性と地域防災組織、消防団の活動紹介 ・「感謝」する気持ちと日頃の備えについて考察する ・地域の魅力、コミュニティの復旧・復興の姿を体感してもらう 		
想定される機能 と必要諸室	機能	展示内容リスト	諸室
	ガイダンス機能	・全体ガイダンス	コーナー展示
		・地域ガイダンス	コーナー展示
	展示学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・西原村の地震の特徴と被害状況 ・西原村の地形と断層 ・自然との共存の歴史 ・西原村の復旧・復興 ・西原村のコミュニティ再生と今後の備え ※ドキュメント映画上映	コーナー展示
	交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光名所案内 ・地域の物産案内 ・地域イベント案内 	コーナー展示
提供する プログラム例	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部・ガイドによる解説案内 ○体験談等の講話 ○各種イベント、講習会等の開催 ○各種訓練への参画 	コーナー展示	
想定利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・一般観光客 ・学校団体、修学旅行 ・視察団体 		

拠点の公開時期：2019年度～2020年度において展示内容や展示時期を検討



萌の里

⑥ 南阿蘇村

項目	展開概要		
地域のテーマ	大自然阿蘇の成り立ち、大規模自然災害の驚異、大規模復旧・復興の過程		
震災ミュージアムの主な拠点	◎旧 長陽西部小学校		
拠点の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・震災ミュージアム全体のガイダンス（共通展示） ・地域の震災遺構等のガイダンス（案内） ・阿蘇の大自然の成り立ちを知ってもらう ・大規模自然災害の歴史の驚異を体感してもらう ・大規模な復旧・復興の過程を知ってもらう 		
想定される機能と必要諸室	機能	展示内容リスト	諸室
	ガイダンス機能	・全体ガイダンス	コーナー展示
		・地域ガイダンス	コーナー展示
	展示学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇の大地の成り立ちと恩恵 ・南阿蘇村の地震の特徴 ・南阿蘇村の地形地質と断層 ・自然災害の歴史と驚異 ・南阿蘇村の暮らしとコミュニティ、今後の備え 	展示室 (屋内ICT展示)
		<ul style="list-style-type: none"> ・大規模山腹崩壊の姿 ・断層痕 ・復興・復旧工事の現場 	屋外ICT展示
	交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・復興弁当の提供 ・地域の観光名所案内 ・地域の物産案内 ・地域イベント案内 	コーナー展示
提供するプログラム例	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部・ガイドによる解説、屋外遺構の案内 ○各種研究成果発表 ○各種イベントの開催 	多目的室	
想定利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・視察団体 ・学校団体、修学旅行 ・一般観光客 		

拠点の公開時期：2021年度予定



旧 長陽西部小学校

⑦ 御船町

項目	展開概要		
地域のテーマ	地震被害伝承の取組や日奈久断層地震への備え		
震災ミュージアムの主な拠点	◎街なかギャラリー		
拠点の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・震災ミュージアム全体のガイダンス（共通展示） ・地域の魅力を知ってもらう ・地域の復旧・復興の過程を知ってもらう ・明治22年熊本地震と平成28年熊本地震の概要・特徴 ・活断層の地震に対する備え 		
想定される機能と必要諸室	機能	展示内容リスト	諸室
	ガイダンス機能	・全体ガイダンス	コーナー展示
		・地域ガイダンス	コーナー展示
	展示学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・御船町の地震の特徴と被害状況 ・御船町の成り立ちと復旧・復興 ・明治22年熊本地震と平成28年熊本地震の概要・特徴 ・活断層地震の特徴と今後の備え ・『オールみふね』の復旧・復興活動 	特設コーナー
	交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光名所案内 ・地域の物産案内 ・地域イベント案内 ・『オールみふね』情報案内 	コーナー展示
提供するプログラム例	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部による写真ギャラリー解説 ○防災教室、講習会 	特設コーナー	
想定利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・視察団体 ・学校団体、修学旅行 ・地域住民 		

拠点の公開時期：2021年度予定



街なかギャラリー

⑧ 益城町

項目	展開概要		
地域の訴求テーマ	自然の恵み、祈りと暮らし、震災の教訓と伝承、自然との共生		
震災ミュージアムの主な拠点	<ul style="list-style-type: none"> ◎新庁舎（新設） ◎ミナテラス ◎四賢婦人記念館 		
拠点の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・震災ミュージアム全体のガイダンス（共通展示） ・地域の震災遺構等のガイダンス ・自然の恵み、自然との共生の歴史を知ってもらう ・地表地震断層とその特徴を知ってもらう ・断層の最先端研究の成果を公表する ・地域の魅力、コミュニティの復旧・復興の姿を体感してもらう 		
想定される機能と必要諸室	機能	展示内容リスト	諸室
	ガイダンス機能	・全体ガイダンス	コーナー展示
		・地域ガイダンス	コーナー展示
	展示学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ・益城町の地震の特徴と被害状況 ・益城町の地形と断層 ・断層の研究最前線 ・益城町の伝説と民俗信仰 ・自然との共存の歴史 ・益城町の復旧・復興 ・益城町のコミュニティ再生と今後の備え 	コーナー展示 屋外ICT活用
	交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光名所案内 ・地域の物産案内 ・地域イベント案内 	コーナー展示
提供するプログラム例	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部・ガイドによる解説案内 ○体験談等の講話 ○断層研究結果の講演 ○各種イベント、講習会等の開催 ○各種トレッキングツアー等の実施 	視聴覚室、屋外等	
想定利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・一般観光客 ・学校団体、修学旅行 ・研究者、研究者団体 		

拠点の公開時期：ミナテラス（一部公開中）、四賢婦人記念館（令和元年予定）



ミナテラス



四賢婦人記念館

4 熊本地震の経験を語る地震語り部との連携

熊本地震の経験や教訓を風化させず確実に後世に伝承するため、熊本地震当時の状況や復旧・復興への取り組み、熊本地震を経験して得られた教訓等を語る方々（地震語り部）と連携し、熊本地震に関する学びの機会を提供します。

5 他の機関との連携

震災ミュージアムの内容の充実と最新の情報を提供することで今後の大規模自然災害に向けた国内外の防災対応の強化を図るため、各機関等と連携します。

① 大学や専門の研究機関との連携イメージ

大学や専門の研究機関と連携し、震災ミュージアムの拠点等において布田川断層や日奈久断層の活動に関する最新の研究成果や火山や地質系の研究成果、防災・減災に関する研究成果等を発表します。

② 企業や民間団体等との連携イメージ

県内の企業や民間団体等と連携し、震災ミュージアムの拠点等において熊本地震後の対応や復興への取り組み、今後の対策（事業継続計画の作成等）の出前講座やセミナーを開催するほか、企業や民間団体等による防災・減災に関連する最新の研究成果や技術開発の成果、新たに開発された製品等を紹介します。

③ 他のミュージアムとの連携イメージ

○県内の他のミュージアムとの連携

県内博物館等のネットワーク構築を進める熊本県博物館ネットワークセンターと連携し、他の博物館等との展示物の相互貸借や共同企画展を実施します。

また、阿蘇ユネスコ世界ジオパーク事務局が入る阿蘇火山博物館との相互連携を深め、情報発信を行います。

さらに、阿蘇ユネスコ世界ジオパークのジオサイトや国立公園満喫プロジェクトのビューポイント（トレッキングコース等）を震災ミュージアムの回廊ルート内に組み込むなど情報発信の質の向上を図ります。

○国内外の震災ミュージアムとの連携

「北淡震災記念公園」、「人と防災未来センター」、「中越メモリアル回廊」等の県外の被災地域にある震災記録の伝承施設や台湾の「921地震教育園」等国外のミュージアムと連携した情報発信を行います。

④ 国の機関との連携イメージ

国の機関と連携し、国による復旧工事の過程等がわかる資料や地震の研究成果、防災関連資料等の展示、セミナーやシンポジウム等を開催します。

6 回廊ルートの設定

震災ミュージアムに取り組む関係市町村と連携し、震災ミュージアムを効果的に巡るための回廊ルートを設定します。

設定に当たっては、市町村と検討した回廊ルート候補について、モニターツアー参加者のアンケート結果や旅行業関係者からの意見等を反映していきます。

また、回廊ルートの設定に当たり、震災遺構や拠点への交通アクセスに関する課題については、国や関係市町村、交通事業者等と連携し、必要な対策を検討していきます。

7 効果的な情報発信

震災ミュージアムの取組を広く伝えるため、効果的な情報発信を行います。なお、情報発信においては、視覚や聴覚の障がいを持った方や外国人の方が利用しやすいものとしします。

① ポータルサイトの構築

令和元年度（2019年度）にインターネット上にポータルサイトを構築し、以下の情報を発信していきます。またこれらの情報については随時更新していきます。更にSNS等との連携も図ります。

＜ポータルサイトで提供するコンテンツ（予定）＞

- ・震災遺構の紹介
- ・拠点施設の紹介
- ・回廊ルートの紹介
- ・「熊本地震デジタルアーカイブ」や他県の震災アーカイブとのリンク設定
- ・市町村観光情報の紹介
- ・震災ミュージアムからのお知らせ機能
- ・視察等の受付

なお、ポータルサイトにおけるコンテンツの制作等においては、「熊本地震デジタルアーカイブ」に保存された写真、映像等のデータを積極的に活用します。

② パンフレット等の作成

震災ミュージアムを構成する震災遺構や拠点施設の紹介、回廊ルートなどの情報を発信するため、広報用パンフレット等を作成し、震災ミュージアムの進化にあわせて内容を更新していきます。

③ SNSの活用

SNS等を活用し、タイムリーかつ親しみやすい情報発信を行います。

8 誘客活動

震災ミュージアムの取組を広く伝え、より多くの方々に訪問していただき、ひいては本県の観光振興等を図ることを目的に誘客活動を行います。

① 関係部局等と連携した修学旅行や社会科見学等の呼び込み

観光担当部局等と連携し、教育旅行素材説明会等を通じて修学旅行の積極的な誘致活動を行います。

また、県内においては、教育委員会等と連携し、学校における防災教育等の一環としての社会科見学や校外学習のコースに震災ミュージアムの拠点等を取り込みます。

② 震災遺構や拠点等を巡るツアーの実施（モニターツアーの実施、定期観光ツアーの開発など）

熊本地震の風化防止と熊本地震からの復旧、復興の状況を発信し続け、より多くの方々に震災ミュージアムを知っていただくため、震災遺構等や拠点等を巡るモニターツアーを実施します。

また、県観光連盟や旅行事業者等と連携し、民間によるツアープログラムの開発・実施につなげます。

9 「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」との連携

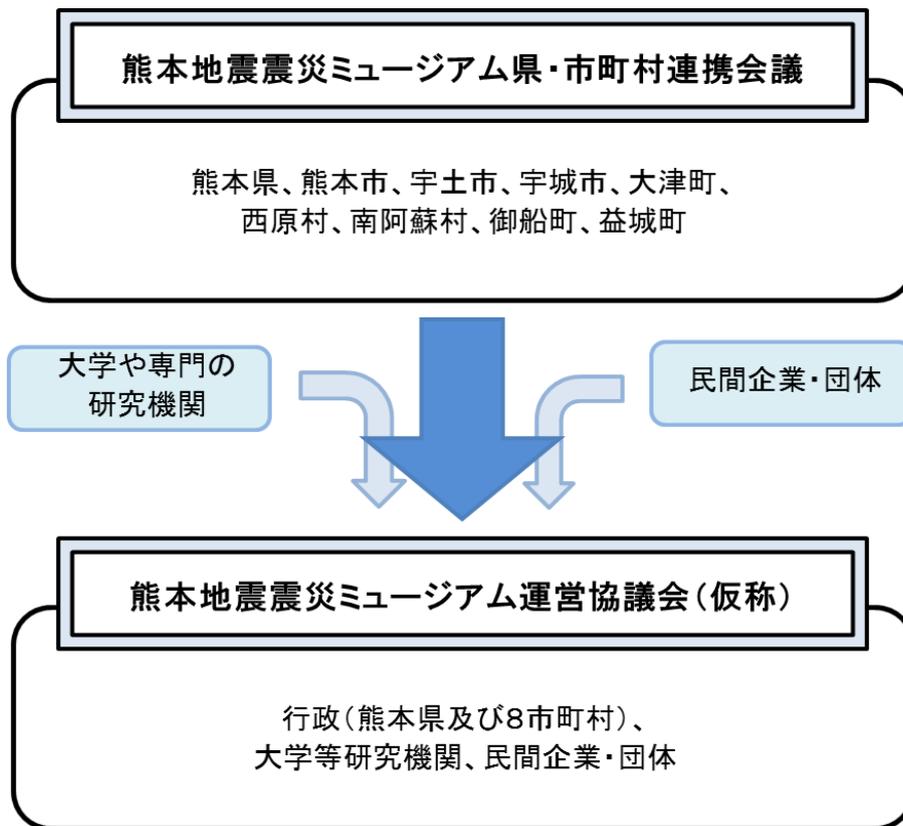
震災ミュージアムの取組を国内外から訪問される方々に伝えるため、「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」と連携し、教育旅行や国内外からの誘客を図ります。

10 震災ミュージアムの運営体制

回廊型の震災ミュージアムの実現に当たっては、その具体化に向けた検討、実現に向けた取組み、さらには、その運営などそれぞれのプロセスにおいて県、市町村、大学や専門の研究機関、企業・民間団体等の協働により進め、それぞれが経験して得られた教訓やノウハウを広く情報発信していかなければなりません。

そのため、県や市町村、大学や専門の研究機関、企業・民間団体等で構成される「熊本地震震災ミュージアム運営協議会（仮称）」（以下「協議会」という。）を令和2年度（2020年度）までに設立します。協議会では県や市町村が整備する拠点における情報発信の内容の調和を図りながら、関係機関・団体が有する熊本地震を経験して得られた教訓等を震災ミュージアムの中において様々な形で生かすこととします。

なお、協議会の事務局は、県に置くものとします。



[協議会における主な協議事項]

- ・震災ミュージアムの各拠点間のイベント等の企画及び協力
- ・震災ミュージアムの誘客に向けた協議及び周知、広報の実施
- ・ホームページ、パンフレット等の見直し 等

[事務局の主な業務内容]

- ・協議会の運営（会議、会計事務を含む）
- ・広報、誘客活動
- ・団体旅行の受入調整
- ・震災ミュージアムへの問い合わせ対応
- ・ホームページ運営管理、パンフレット等の作成、更新 等

11 スケジュール

区分		実施主体	場所、建物、取組等	～平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	
震災遺構の保存 (代表的なもの)		大津町	瀬田神社の巨石	保存					
		西原村	ガードパイプ(大切畑ダム付近)					大切畑ダム復旧後の2024年度を予定	
			断層表面化(大切畑ダム横)		展示検討	展示工事			
		南阿蘇村	大規模地すべり (高野台、京大火山研究所付近)				展示工事		
			黒川地区の地表地震断層				展示工事		
益城町	国指定天然記念物 3つの断層			仮保存事業	展示工事時期検討中				
中核拠点の整備	県防災センター	県防災センター内展示スペース						コンテンツ整備	
	東海大学 阿蘇キャンパス	震災遺構 (地表地震断層、1号館建物)			保存工事				
		体験・展示施設及び周辺施設等					施設整備 コンテンツ整備		
地域の拠点の整備		熊本市	熊本城(天守閣)	復旧工事・展示改修					
			城彩苑(わくわく座)	コンテンツ整備					
			熊本市動植物園		復興パネル展示				
		宇土市	新庁舎					コンテンツ整備	
		宇城市	松橋東防災拠点センター				コンテンツ整備		
		大津町	新庁舎				コンテンツ整備		
			おおづ図書館				コンテンツ整備		
		西原村	西原村交流館「萌の里」			展示内容・時期の検討			
		南阿蘇村	旧 長陽西部小学校				改修工事		
		御船町	街なかギャラリー				コンテンツ整備		
		益城町	交流情報センター ミナテラス	一部公開中	コンテンツ整備				
			四賢博人記念館		コンテンツ整備				
			新庁舎					コンテンツ整備	
記憶、教訓等の伝承の取組		県、市町村	熊本地震の経験を語る地震語り部との連携	熊本地震の経験を語る地震語り部との連携					
		県、市町村	他の機関との連携	一部連携開始>			連携の本格化	
		県、市町村	回廊ルートの設定	震災遺構の保存や拠点整備の進捗を踏まえた回廊ルートの継続的な検討					
		県、市町村	効率的な情報発信		ホームページの構築	定期的な更新			
		県、市町村			パンフレットの作成	定期的な更新			
		県、市町村	勝客活動	広報、勝客活動の実施					
		県、市町村	「ONEPIECE熊本復興プロジェクト」との連携	(ONEPIECE像の設置)	連携				
		県、市町村	震災ミュージアムの運営体制	熊本地震震災ミュージアム 県・市町村連携会議	熊本地震震災ミュージアム運営協議会(仮称)				